

哲學研究

第四十三卷 第五冊

第四百九十九號

昭和四十一年二月一日發行

形式論理學の哲學的位置……………杉原丈夫

ヘーゲルの精神現象學、及びそれ以前の諸書に於ける「生と死の戦い」の思想について(未完)……………ヴァン・ブラフト

カントの目的論……………訓覇曄雄

— 論理的合目的性と美的合目的性 —

意味と志向性……………土屋純一

京都大學文學部内
京都哲學會

京都哲學會規約

- 一、本會は廣義における哲學の研究とその普及を圖ることを目的とする
- 一、右の目的のために左の事業を行う
 - (一) 毎月一回會誌「哲學研究」を發行する
 - (二) 毎年公開講演會を開く
 - (三) 随時研究會を開く
- 一、本會の事業を遂行するために委員若干名をおく
委員は京都大學文學部哲學科教官及び委員會において推薦したものに委嘱する
- 一、本會に賛助員若干名をおく 賛助員は會員の中から委員會が推薦する
- 一、本會は會員組織とし會員には資格の制限を設けない 學校・圖書館・其他の團體は團體の名を以て入會することができる
- 一、會員は會費として年二、四〇〇圓(會誌十二冊分を含む)を前納する
但し 二回又は三回に分納することもできる
- 一、會員は會誌の配布を受け會誌に豫告する諸種の行事に出席することができる
- 一、本會は事務所を京都大學文學部内におく
- 一、規約の改正は委員會の決定による

京都哲學會役員

委員

湯山森本武水松藤服蓮野長辻武高園島重神梶柿上井石池
 淺 口 吉藤 尾澤部實田尾村内田原 澤野 山崎野 田
 田 美 垣
 幸 都 良一 義令正重又雅公義三太 芳 俊 一 雄祐照 義
 孫晶男治雄涉海夫明康夫人一範郎郎夫郎郎一一夫勉仁祐

| 前 号 目 次 | |
|------------------------|--|
| 歴史に於ける行為と反省(未完)……島 芳 夫 | |
| 体系と問(承前完)……樋 元 和 一 | |
| ——理論性の問題—— | |
| 現象学の真理……常 俊 宗 三 郎 | |
| 書評 | |
| メルロー・ポンティ | |
| 『行動の構造』……水 野 和 久 | |

次 号 特別記念編集号論文予告

| | |
|--------------------------------------|------------------------|
| 西洋哲学の特徴…………… | 野田 又夫 |
| トマス・アクイナスとアリストテレス形而上学…………… | 高田 三郎 |
| 無底——シェリング自由論に於ける——…………… | 辻村 公一 |
| 古典ニヤイヤ学派のアートマン論とその背景…………… | 服部 正明 |
| シナの倫理思想に於ける「規範」と「現実」…………… | 湯浅 幸孫 |
| 現代心理学の問題…………… | 園原 太郎 |
| 善悪と自己…………… | 森口美都男 |
| 芸術制作における内在・超越の問題…………… | 井島 勉 |
| 縄文文化の時代の土偶彫刻における 抽象と具象の芸術的意味…………… | 蓮実 重康 |
| 社会事象としての多数決について…………… | 池田 義祐 |
| 宗教的象徴の問題…………… | 武内 義範 |
| 存在と知識…………… | 梶山 雄一 |
| ——仏教哲学諸派の論争—— | |
| パウロの回心をめぐる諸問題…………… | 武藤 一雄 |
| 『哲学研究』の思い出…………… | 植田寿蔵・山内得立 下村寅太郎・三村勉 |

會 告

一、本會は會員組織とし會員には資格の制限を設けません、入會希望の方は京都市左京區吉田京都大學文學部内京都哲學會(振替口座京都四〇三九番 京都哲學會)宛に規定の會費(年二、四〇〇圓又は半年一、二〇〇圓)をお拂込下さい

又會員への會誌送付、バックナンバー購入、及び發賣に關する一切は東京都千代田區代官町二 創文社(振替口座東京九二四七二番 創文社)宛に願います
一、會費切れの場合は封筒に「前金切」の印を捺しますから直ちに京都哲學會宛御拂込下さい(一年分又は半年分)、會費は原則として本誌十二冊)又は六冊)の送付済を以て前金切れとし、會費の變更其他の事情による過不足は一年(又は半年)毎に精算します

一、會員の轉居・入退會の事務及び編集事務の一切は京都哲學會宛に御通知下さい
一、本誌の編集に關する通信・新刊書・寄贈雜誌等は本會宛にお送り下さい

京 都 哲 學 會

京都市左京區吉田
京都大學文學部内

昭和四十一年一月三十日印刷
昭和四十一年二月一日發行

編 集 人

京 都 哲 學 會

京 都 大 學 文 學 部 内
編 集 代 表

神 野 慧 一 郎

發 行 人

久 保 井 理 津 男

印 刷 人

堀 内 文 治 郎

印 刷 所

堀 内 印 刷 所

發 行 所

株 式 會 社

創 文 社

東 京 都 千 代 田 區 代 官 町 二
振 替 口 座 東 京 九 二 四 七 二 番
電 話 九 ノ 内 四 〇 〇 八 番

註 文 規 定

一、會員以外の購讀者の御註文及び廣告掲載に關する件は「創文社」へ御申込下さい
一、本誌の御註文はすべて代金送料共(一部、定價二五〇圓、送料・四〇圓)前金にてお送り下さい

THE JOURNAL
OF
PHILOSOPHICAL STUDIES
THE TETSUGAKU KENKYU

Vol. XLIII

February, 1966

No. 5

The Philosophical Position of Formal LogicTakeo Sugihara

The Life and Death Struggle in Hegel's Early

Writings (I)Jan Van Bragt

Kants TeleologieTeruo Kurube

— *Eine Betrachtung über die logische und
die ästhetische Zweckmässigkeit* —

Meaning and IntentionalityJun-ichi Tsuchiya

Published Monthly

by

THE KYOTO PHILOSOPHICAL SOCIETY

(The Kyoto Tetsugaku-Kai)

Kyoto University

Kyoto, Japan

定
價
二
五
〇
圓

IBM 4276